
大いなる自然の中で

茶川竜之介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大いなる自然の中で

【Nコード】

N3799BA

【作者名】

茶川竜之介

【あらすじ】

地球ではない星。そこには、人によく似た生き物が大自然の一部として生きていた。

人のように能力は低くなく、並の獣の力を持っていた。

がしかし、ガグルスと言う凶暴な肉食獣が彼らの天敵であった。

10になった少年は、成人の儀式を行い。戦士になり、村の為に戦い。村を守る。

10になった少女は、成人の儀式を行い。戦士になる物はなり、ある物は村の子供をまもる。

そんな中、主人公の少年は、あるときガグルスに目をやられてしまい。剣士から外れてしまった。

だが、昔から志していた医者^{イサナ}の道を歩み始めた。

これは、元々書いていた小説を書き直し元々書こうとしていたルートへと戻した物です。

プロローグ

地球ではない星。そこには、人によく似た生き物が大自然の一部として生きていた。

人のように能力は低くなく、並の獣の力を持っていた。

がしかし、ガグルスと言う凶暴な肉食獣が彼らの天敵であった。

10になった少年は、成人の儀式を行い。戦士になり、村の為に戦い。村を守る。

10になった少女は、成人の儀式を行い。戦士になる物はなり、ある物は村の子供をまもる。

そんな中、主人公の少年は、あるときガグルスに目をやられてしまい。剣士から外れてしまった。

だが、昔から志していた医者之道を歩み始めた。

隣村

「よ！アローン。」

「レオ。戻ってきたか！」

「お前が言ってた通りにすればうまく剣を使えた」

「そりゃ良かった。」

「しかし、この剣は慣れるのが難しいな・・・」

「言っただろ。良いものほど癖は大きい」

「そうだったな・・・」

僕は太柄な友人に剣の使い方を見せている。

僕は村の中でもかなり小柄だ。

今思えば、よく剣士をやっていた。

今では、弓を使っている。しかし、猟へ行くよりも

医者の仕事をしている。

「また、教えてくれよ！」

「分かった。」

この世界では獣人が暮らしている。僕は獣人の小さい村の一員だ。

そして、医者でもある。獣人は凶暴な生物。

ガグルスとは、凶暴な生物で肉食系のものを指す。

草食系の生物はモンスターと呼ぶ。

獣人は、森の中に村を作る。住居は木の上か、木の下に穴を掘る

そして、半獣化が可能で半獣化すると戦闘能力が上がる。しかし、

使いこなすには

かなりの訓練が必要だ。

・・・薬を作り終え、僕は眠りについた。

・・・

「ドンドン！」

誰だ・・・こんな時間に・・・

「はい」

「アローン！隣の村がガグルスに襲われている！」

「え……。」

「行くぞ！」

「分かった。準備をする。」

まず、カバンに薬を入れる。そして、弓を肩にかける。

そして、矢の束を腰につける。

獣人の着ている服は袋に、穴をあけた様なものだ。

「行きましよう！」

「急ぐぞ！」

僕とレオは隣の村へと走った。

……。ひどいな……

「既に半獣化出来る人が戦ってるみたいだけど……」

「小型のガグルスみたいだ」

僕は足跡を見て言う。

「え????」

「これぐらい分らないと……。しかも、群れで襲ってるみたいだ。」

「そうなら、急いで住民を誘導か……」

「そう！急ごう！」

村に入ると、すでにかなりの木が燃えている。

「誰か居ませんか？」

レオは叫んでいる。

僕は村の奥の方へ進む。

弓に矢を携え……

半獣化してる人？

あ……。戻った……。

ケガ人か……

僕は駆け寄る。

「グルルルル・・・」

「ガグルス！」

ケガ人の近くか！！僕は弓を構える。

こつという時にろくに練習していない事を悔やんでしまう。
矢をもっている手を放つ。

矢が放たれ、ガグルスに向かって飛んで行く。

ガグルスはケガ人にとどめを刺す寸前で矢が刺さり
動きが止まる。

僕は動きが止まったのを見て、弓に矢を携え、

弦を引っ張る。そして、一気にケガ人に近づいて、ガグルスにとどめを刺す。

「女の子？」

僕は怪我への応急処置をして、布で彼女を包んで背負う。

「アローン！」

「どーした！レオ！」

「退くぞ！！」

「分かった。」

僕は村から女の子を背負って逃げた。

保護

僕は家に帰ると、ケガ人の対応をした。

いつのまにか、朝になっていた。

「こんな時間か・・・。」

背伸びをする。眠たい・・・でも今は眠れない・・・

ベットでは・・・。

・・・。

「おい・・・。」

「ガバツ!!・・・。おはよう」

「おはよう・・・って大丈夫か？」

「まあまあ・・・。そうだ・・・薬を作らなくては・・・。」

「薬草集めはしといた。」

「あ...ありがとう」

「しかし・・・新人の医者なのに大変だね」

「まあ・・・仕事だし」

頭をかきながら言う。

しかし・・・耳もかゆいな・・・

「弓の使い方・・・教えるわ」

「すまん」

そして、1時間ぐらいレオから弓の事をレクチャーされた。
なぜこんなに、弓の事を知っているかと言えば、もともと
レオは弓を使っていたからだ。

体格の良さも遭って、今では剣士だが。

そして、レオは時間を見るとそそくさと帰って行った。

なんかあったのか・・・

「さて、薬を作るか・・・。」

薬草をすり潰したり、調合をしたりとするうちに夜になっていた。

「こんな時間か・・・ごはんにするか」

僕は後ろの方

ベット

を見ると、こつちを見てる人がいる・・・。

「チヨ…調子は？」

「…。あんた誰？」

「医者です。君を保護して、治療した。」

「…………。エレン…………。」

「え？」

「私はエレン。」

「え…………えーつと僕はアローンです。よろしく」

手を出してみる。握り返され、ほっとする。

僕はその後ごはんを作り、彼女に渡す。

「…………。」

「…………。」

「あのさ…………。」

「なに？」

スープを飲む。

「…………おいしい…………。」

「ありがとう」

パンをかじり、僕は薬草をまた、すり潰したりする。

奥の部屋で太い本をとり、開く。

「熱するのか…………。」

薬草を熱しながら、後ろを見る。

「エレンは剣士ですか？」

「え？あ…………うん…………。」

「そうですか。半獣化できるとは、スゴいですね」

「え…………半獣化？」

「していましたよ。」

「本当に…………？」

「半獣化した記憶がないみたいですね・・・

でも、よくある事です。本能的になっただんですかね」

「へえ・・・」

「歳はいくつですか？」

「16・・・」

「そうですか・・・」

「アローンは？」

「16です・・・」

多分、身長が僕より高いのか・・・

変な事でショックを受けつつ、薬の準備をする。

「薬を塗りますので、起きてください。」

エレンは起き上がる。

「ちよつと待って・・・」

エレン止める。

「なんですか？」

「・・・見たの？」

「まあ・・・極力見ないようにはしましたが・・・」

「分かった・・・」

「それじゃ、薬を塗りますね。」

まずは背中。ぱっくりと大きなキズがある。でも、これは浅い方だ。

次に左腕。骨折しているみたいだ。

各所の処置をして、あたらしい包帯を巻く。

「・・・左目どうしたの？」

「左目ですか？ガグルスにやられて、開かなくなりました。

1年前ですが、その時は剣士でして・・・」

「それじゃ、弓は最近始めたの？」

「そうですね。」

「使ってた・・・」

「もう寝てください。すっかり夜は深けました。」

僕は暖炉の前のイスに腰を掛け、眠りに入った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3799ba/>

大いなる自然の中で

2012年1月9日22時52分発行